

国史跡  
指定50年

# 土生遺跡

## 特別展

おぎのまんなか!

はぶいせき



入場無料

会期 令和5年  
 9月9日(土)~  
 10月22日(日)  
 [休館日:毎週月曜日・  
 9月19日(火)・10月10日(火)]  
 開館時間 9:00~17:00  
 (9月9日は12:00から開催)

会場  
 小城市立歴史資料館  
 (桜城館2階)  
 佐賀県小城市小城町158-4





おぎのまんなか!

はぶいせき

# 土生遺跡特別展

入場無料

今から50年前の昭和48(1973)年6月2日、小城市三日月町の土生遺跡は「弥生時代前期末頃、朝鮮文化の影響を強く受けた農耕集団によって作られた村であり、わが国の弥生時代における原始農耕社会の実態を知るものとして重要である。」として、国の史跡に指定されました。

土生遺跡が発見された昭和46(1971)年とその翌年に行われた発掘踏査によって、多数の木製農耕具や石器類のほか、住居跡が確認され、弥生時代中期の農耕集落遺跡と認められたことが指定の理由となっています。

発見、そして国史跡指定から50年となる現在に至るまで、小城市内では土生遺跡に限らず石木中高遺跡(三日月町)や生立ヶ里遺跡(牛津町)、丁永遺跡(小城町)など様々な遺跡で発掘調査が行われ、眼を見張る発見が相次ぎました。

国史跡指定50年を記念した今回の特別展では、発掘調査によって少しずつ明らかになってきた小城市域の弥生時代の様子を土生遺跡の調査成果を踏まえて紹介します。

小城市域の遺跡のなかで、土生遺跡はこれほど特別な存在だったのか!。「すごい!すごい!」と言われる土生遺跡について、その「すごさ」や「重要性」について展示・解説します。

## おぎのまんなか!

土生遺跡は、弥生時代に佐賀平野に営まれた集落遺跡です。今から2000年ほど前の弥生時代中期初頭には、嘉瀬川以西域で最大規模の集落に発展していきます。「おぎのまんなか!」といえるほど発展した土生遺跡からは、これまでの発掘調査によって朝鮮系無文土器や青銅器鋳型、木製の踏鋤など朝鮮半島に由来する外来系遺物も多数出土しており、在地の弥生文化と大陸系の文化が交わる場として注目を集めています。



朝鮮系無文土器



青銅器鋳型



踏鋤



木製農耕具



くりぬき井戸枠と弥生土器



ひぜん狛犬&まひろちゃん

### 関連行事 (要予約)

#### 記念シンポジウム

「ここがすごいよ。土生遺跡!」

##### パネラー

高島 忠平 氏 (佐賀女子短期大学名誉教授)

片岡 宏二 氏 (小城市埋蔵文化財センター長)

吉田 広 氏 (愛媛大学教授)

服部 二郎 氏 (土生遺跡第4次調査担当者)

■と き:令和5年9月23日(土)14:00~16:00

■と ころ:ゆめぶらっと小城市 天山ホール (定員150名)

#### 記念講演

「吉野ヶ里遺跡と土生遺跡」

##### 講師

七田 忠昭 氏 (佐賀城本丸歴史館長)

■と き:令和5年10月14日(土)13:30~15:00

■と ころ:ゆめぶらっと小城市 天山ホール (定員150名)

#### 文化財ウォーキング

「土生遺跡の発掘調査区を巡る」

■と き:令和5年10月14日(土)9:30~12:00

■と ころ:桜城館集合出発 (雨天時は桜城館で展示解説)